

今夜7時から
西成市民館3階
毎週金曜日

みんなで作ろう
みんなの会館
三人よれば何とかの知恵

夜間学校ニュース

西成区教文部屋2-5-23
夜間学校
連絡先

春期斗争の

評価はどうか

川大勢としては単価は上がったが

二月の末から、一九八四年釜ヶ崎春期斗争の第一弾が始まった。

センターでのマイク情宣、びょうまき、そして、手配師を取りまいての団交、これらに先立っての調査活動。ともかく、現金は七千五百円を最低とする。飯場は

喰坂きは六千五百円以上、×シ代を取るなら七千五百円から千三百円引きを限度とする。の要出は九割がたこうだ。これは、みんなの団結の力だ。不十分な点もある。交通費を支払われないところ、×

シ代を千四百円・千五百円とるところ、衛生費をとるところなどを、すべて改めさせるまでにはいたっていない。

勝ち取れた点、十分な点をひつくるめて、八四春期斗争の第一弾をふりかえって、来年以後の単価引き上げに備えたいと思う。

単価引き上げのせりかた、飯場の条件の決め方、斗争の進め方など、様々な面から検討を加えて行きたいと思えます。

そういつた現実的な条件引き上げの斗いについてだけでなく、きわめて原則的なことについても話し合ってみたいと思えます。人夫出し、労務供給業は

止されていきます。我々を品物のように売り買いかけてもつける輩の存在は、まことに腹立たしいものがあります。

仕事につくために、せむをえなれない存在、現在の生活の中ではあきらめきれぬとあきらめるしかない。だが、なんとなん、腹立たしくなることがある。

今この単価引き上げのやり方では、現実的な利益はあるが、精神的な苦痛はなくなるならいい。

人夫出し、手配師を認めたと同時に精神的苦痛をもとり除く斗いも必要です。

春闘・賃金・条件・その他

前二回の夜間学校は、金日労の春闘集会への参加という事で三月九日の夜間学校は久しぶりのものでした。現金関係の賃金はほとんど七五〇〇円になったものの、飯場関係についてはこれからという事で、このままの春闘、これからの春闘について話し合いました。

「あつけないほど、現金は五〇〇円アップやけど、それだけ業者はもうけとる、いうことやじ

「それでも、喜こんでる人は多いでじ

「月に十四日仕事にいったら、七〇〇〇円にふるわけやから、バカにはできません」

「それでも交通費なんかが入ってることがあるからな」

「京都や高槻の現場から直接きたら九〇〇〇円だす言われ

「たけど、メシ代・交通費を引いたら、七五〇〇円とかわりない

「七〇〇〇〇円の時代から五割くらい業者は交通費なしやっただし、今もそうとちやうか」

「元は毎年あがってるんやろ」
「業者同士が競争しあって、それで単価も低うおさえらわてる」ということもある」
「今みたいには事がある時は、このいネもそれだけ夕やろうけど、ある意味では仕事の多い時こそワミラの正月と思つて」
「それとも、三月いっぱい話してちやうか、四月にならうと

なるか、ゆからへん」
「四月は例年三〇四〇〇円賃金もさがる、交通費をきりするとかでな」

「これとも、これからの課題や」

「それとはともあめ、この勢いで飯場も七五〇〇円にもっていきたいもんや」

「飯場は、メシ代とか諸式とか衛生費とかで、一律にはなかなかはいけへんで」

「昔、飯場について布団があんまりないもので、仕事せんすぐ帰ってきたことがある」

「雨で休みたいなあ、と思つても、休まゆへんこともある」

「飯場でのツシが酒のむか、の

めへんかでも、だいぶちがうで、飯場のメシくゆんと、酒のむこともある」

「メシ代は一三〇〇〇円くらいが多いけど、差は大きいので、釜におつて一三〇〇〇円もあつたらもつとええもんくえらわじ

「単価七五〇〇円にするんや」

「たらメシ代一三〇〇〇円では高売でけへん、というてる業者もあ

「たけど、そんなんやたら高売やめてもらたらええぬん」

「なんにしても、上やのうて最低が五〇〇〇円ずつでも毎年あが

「っていくいうのは、大事やと思

「うし、それに自分らの手で上げ

「さしていくいうのも大事や」